



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年1月31日

上場会社名 株式会社マースグループホールディングス
コード番号 6419 URL <https://www.mars-ghd.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 高橋 丈治

TEL 03-3352-8555

四半期報告書提出予定日 2024年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	27,378	99.0	9,181	268.5	9,834	228.1	6,725	200.8
2023年3月期第3四半期	13,755	24.6	2,491	91.4	2,997	40.3	2,236	35.5

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 8,628百万円 (171.3%) 2023年3月期第3四半期 3,181百万円 (21.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	395.68	393.65
2023年3月期第3四半期	134.93	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	78,744	66,497	84.4	3,783.55
2023年3月期	63,922	56,307	88.1	3,429.37

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 66,482百万円 2023年3月期 56,307百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		35.00		35.00	70.00
2024年3月期		60.00			
2024年3月期(予想)				45.00	105.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,000	57.3	9,300	125.4	10,000	111.4	6,600	109.9	379.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	22,720,000 株	2023年3月期	22,720,000 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	5,148,604 株	2023年3月期	6,300,865 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	16,998,516 株	2023年3月期3Q	16,574,218 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより経済活動の正常化が進み、個人消費や設備投資に改善の動きが見られるなど、緩やかな回復基調で推移しました。その一方で、金融引き締めによる欧米を中心とした海外景気の減速が懸念されているほか、長期化するロシア・ウクライナ情勢や緊迫化した中東情勢を背景に資源価格の高騰や円安基調が続いており、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループはアミューズメント関連事業、自動認識システム関連事業、ホテル・レストラン関連事業の各事業を通じてお客様の「満足」を勝ち取るために新たな付加価値の追求をまいりました。また、変化する市場環境に柔軟に対応するため、各事業会社の役割や責任の明確化、意思決定の迅速化を推し進めるとともに、人づくりや組織づくりの再構築を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高273億78百万円（前年同四半期比99.0%増）、営業利益91億81百万円（同268.5%増）、経常利益98億34百万円（同228.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益67億25百万円（同200.8%増）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

[アミューズメント関連事業]

アミューズメント関連事業の主な販売先であるパチンコ業界は、レジャーの多様化や少子高齢化による遊技人口の減少により経営状況の悪化したパチンコホールが閉店・廃業する一方で、大手企業による新規出店やM&Aによる業界再編等、二極化が進みました。こうした中、2022年11月にスマートパチスロ、2023年4月にスマートパチンコがリリースされたことを受け、遊技客数は回復傾向にあり、長らく停滞していた周辺設備の更新需要も高まってきました。加えて、今年7月には新紙幣の発行が予定されており、パチンコホールにおける設備更新が今後も継続していくものと思われまます。

このような状況の中、当社グループではスマート遊技機専用ユニット「スマートユニット」を中心に、少人数でホール運営が可能なパーソナルPCシステム（以下「パーソナル」）及び遊技データ等の収集・AI分析が可能な「マースユニコン」等、豊富なラインナップを武器にトータルシステムでの提案・販売を行ってまいりました。前期から続いていた部材不足も解消し、スマートユニットの販売は好調に推移いたしました。

当第3四半期連結累計期間におけるプリペイドカードシステム（パーソナルやスマートユニットを含む）の売上実績は35店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,483店舗（市場シェア23.7%）となりました。

空気力で紙幣を搬送する業界随一のA i r紙幣搬送システム及びハイスペックモデルの立体A i r紙幣搬送システムは、セキュリティの強化やホール業務の省力化等の導入効果が高く評価され、新規出店案件や居抜き案件の獲得に繋がりました。また、パチスロ人気に牽引されてパチンコ島からスロット島への切り替えやスロット島の増設工事が増えており、A i r紙幣搬送システムの部分導入も進みました。そのほか、景品交換業務における省力化や利便性を追求したセルフPOSやクオリティの高い接客が可能なマーススマートウォッチⅢ等、きめ細やかな製品及び付加サービスの提案・販売を行い、商品力のある製品を通じてお客様満足・信頼獲得に努めてまいりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、222億90百万円（前年同四半期比153.6%増）、セグメント利益は91億45百万円（同281.7%増）となりました。

[自動認識システム関連事業]

自動認識システムは、RFID、バーコード、X線検査装置等を媒体として各種データを自動的に取り込み・認識ができるため、自動化・省人化及びDXの実現には欠かせないキープバイスの一つとして、需要が高まっております。その一方で、中国経済の減速を受けて顧客の設備投資意欲は低迷し、販売環境は厳しい状況となりました。

このような状況の中、当社グループでは特にFA市場、物流市場、アミューズメント市場を中心に提案販売活動を行ってまいりました。目視による検査判別を低コストで自動化した画像処理システム「MoMaVi（モマビ）」やバーコード読取・OCR・パターンマッチング機能を搭載した固定式コード&ビジョンシステム「MCV-F1000」等の新製品のほか、健診業務のDXを実現するクラウド健診システム「macmo（マクモ）」において、業界初の特殊検診対応バージョンをリリースし、各業務プロセスのDXを支援する製品・ソリューションの拡販に努めてまいりました。

この結果、自動認識システム関連事業の売上高は、34億2百万円（前年同四半期比6.0%減）、セグメント利益は2億36百万円（同43.6%減）となりました。

[ホテル・レストラン関連事業]

ホテル業界ならびに外食業界は、新型コロナウイルス感染症の5類移行による行動制限の解除で消費活動や旅行等の人流回復が見受けられ、国内外の旅行者や外食の需要が急速に回復しました。観光庁の発表によると、訪日外国人数はコロナ前の水準に戻っていないものの、訪日外国人旅行消費額は過去最高となりました。一方で、外国人観光客の受入環境の整備やオーバーツーリズム等の対策が喫緊の課題となっております。

このような状況の中、「マースガーデンホテル博多」及び「マースガーデンウッド御殿場」では、マースガーデンクラブ会員獲得の強化やSNSを活用したマーケティング戦略、ダイナミックプライシングによる価格戦略を展開し、収益向上に取り組んでまいりました。

レストラン事業では、東京銀座エリアの「銀明翠GINZA」「銀座松月」を中心に質の良いおもてなしと料理で付加価値を高めブランド力の向上に努めてまいりました。また、マースガーデンウッド御殿場の敷地内に本格イタリアン料理を楽しめるレストラン『フェニーチェ』を3年半ぶりにリニューアルオープンし、順調な滑り出しとなりました。

この結果、ホテル・レストラン関連事業の売上高は、16億85百万円（前年同四半期比25.3%増）、セグメント損失は33百万円（前年同四半期は1億48百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は787億44百万円となり、前連結会計年度末と比較して148億22百万円増加いたしました。

流動資産は458億62百万円となり、前連結会計年度末と比較して107億39百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、現金及び預金が35億70百万円増加し262億71百万円、商品及び製品が26億59百万円増加し48億43百万円、原材料及び貯蔵品が24億12百万円増加し56億59百万円となりました。

固定資産は328億82百万円となり、前連結会計年度末と比較して40億82百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、投資有価証券が34億69百万円増加し149億40百万円となりました。

流動負債は98億20百万円となり、前連結会計年度末と比較して43億53百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、支払手形及び買掛金が22億74百万円増加し51億33百万円、未払法人税等が15億43百万円増加し25億96百万円となりました。

固定負債は24億27百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億79百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、繰延税金負債が3億53百万円増加し3億53百万円となりました。

純資産は664億97百万円となり、前連結会計年度末と比較して101億89百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が50億97百万円増加し562億42百万円、自己株式が23億27百万円減少し△103億27百万円、その他有価証券評価差額金が18億70百万円増加し35億12百万円となりました。

自己資本比率は84.4%となり、前連結会計年度末と比較して3.7ポイント減少いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は262億71百万円となり、前連結会計年度末と比較して35億70百万円増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は42億27百万円の収入（前年同四半期は3億26百万円の支出）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益98億98百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は15億26百万円の支出（前年同四半期は7億5百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出10億36百万円、投資有価証券の取得による支出9億67百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は8億53百万円の収入（前年同四半期は21億44百万円の支出）となりました。主な要因は、自己株式の売却による収入24億28百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年9月13日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,700,571	26,271,262
受取手形及び売掛金	4,430,108	6,352,545
リース債権及びリース投資資産	412,793	391,314
有価証券	349,965	350,105
商品及び製品	2,183,557	4,843,443
仕掛品	172,942	389,295
原材料及び貯蔵品	3,247,645	5,659,684
その他	1,681,447	1,662,151
貸倒引当金	△56,412	△57,513
流動資産合計	35,122,618	45,862,288
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,226,755	5,126,524
土地	9,628,287	10,072,896
その他(純額)	309,242	728,736
有形固定資産合計	15,164,285	15,928,157
無形固定資産		
投資その他の資産	306,158	325,653
投資有価証券	11,471,098	14,940,889
その他	2,350,102	2,174,702
貸倒引当金	△491,481	△486,825
投資その他の資産合計	13,329,720	16,628,765
固定資産合計	28,800,163	32,882,576
資産合計	63,922,782	78,744,864
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,858,476	5,133,340
リース債務	268,902	253,268
未払法人税等	1,052,319	2,596,129
賞与引当金	342,507	178,052
その他	944,796	1,659,250
流動負債合計	5,467,002	9,820,041
固定負債		
リース債務	294,372	239,623
役員退職慰労引当金	177,990	188,790
退職給付に係る負債	585,916	600,497
資産除去債務	61,447	61,797
その他	1,028,684	1,337,051
固定負債合計	2,148,410	2,427,759
負債合計	7,615,412	12,247,801

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	9,218,414
利益剰余金	51,144,527	56,242,091
自己株式	△12,655,002	△10,327,109
株主資本合計	54,795,454	63,067,496
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,641,643	3,512,547
退職給付に係る調整累計額	△129,727	△97,781
その他の包括利益累計額合計	1,511,915	3,414,766
新株予約権	—	14,800
純資産合計	56,307,370	66,497,063
負債純資産合計	63,922,782	78,744,864

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	13,755,358	27,378,632
売上原価	6,023,389	12,280,674
売上総利益	7,731,969	15,097,957
販売費及び一般管理費	5,240,301	5,916,781
営業利益	2,491,667	9,181,176
営業外収益		
受取配当金	414,838	559,285
その他	94,209	93,595
営業外収益合計	509,047	652,881
営業外費用		
自己株式取得費用	3,349	—
営業外費用合計	3,349	—
経常利益	2,997,366	9,834,057
特別利益		
固定資産売却益	1,894	—
投資有価証券売却益	268,488	81,267
特別利益合計	270,382	81,267
特別損失		
土地売却損	3,966	—
役員退職慰労金	3,120	17,100
特別損失合計	7,086	17,100
税金等調整前四半期純利益	3,260,663	9,898,225
法人税、住民税及び事業税	928,040	3,337,094
法人税等調整額	96,313	△164,793
法人税等合計	1,024,353	3,172,301
四半期純利益	2,236,309	6,725,923
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,236,309	6,725,923

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	2,236,309	6,725,923
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	926,464	1,870,904
退職給付に係る調整額	18,310	31,946
その他の包括利益合計	944,775	1,902,851
四半期包括利益	3,181,084	8,628,774
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,181,084	8,628,774

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,260,663	9,898,225
減価償却費	423,800	446,269
引当金の増減額 (△は減少)	△98,795	△157,209
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△39,162	14,580
受取利息及び受取配当金	△415,990	△559,505
協力金収入	△28,422	—
投資事業組合運用損益 (△は益)	—	△17,757
固定資産除売却損益 (△は益)	△1,894	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△268,488	△81,267
土地売却損益 (△は益)	3,966	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,085,987	△1,922,436
リース債権及びリース投資資産の増減額 (△は増加)	125,484	51,382
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,835,802	△5,288,277
営業貸付金の増減額 (△は増加)	59,024	△58,545
仕入債務の増減額 (△は減少)	893,378	2,274,863
リース債務の増減額 (△は減少)	△172,190	△70,382
その他	184,975	832,749
小計	1,004,558	5,362,688
利息及び配当金の受取額	415,990	559,505
協力金の受取額	28,422	—
法人税等の支払額	△1,775,556	△1,694,506
営業活動によるキャッシュ・フロー	△326,585	4,227,687
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△557,759	△1,036,601
有形固定資産の売却による収入	9,629	—
投資有価証券の取得による支出	△1,467,848	△967,174
投資有価証券の売却による収入	1,333,048	414,815
その他	△22,226	62,864
投資活動によるキャッシュ・フロー	△705,154	△1,526,095
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△996,523	△113
自己株式の売却による収入	4,814	2,428,227
配当金の支払額	△1,152,293	△1,597,315
新株予約権の発行による収入	—	23,125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,144,002	853,923
現金及び現金同等物に係る換算差額	24,068	15,175
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,151,674	3,570,691
現金及び現金同等物の期首残高	26,003,862	22,700,571
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,852,187	26,271,262

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル・ レストラン 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	8,787,952	3,622,045	1,345,360	13,755,358	—	13,755,358
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	432,230	243,813	25,377	701,421	△701,421	—
計	9,220,183	3,865,859	1,370,738	14,456,780	△701,421	13,755,358
セグメント 利益又は損失 (△)	2,396,193	418,583	△148,866	2,665,909	△174,242	2,491,667

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△174,242千円には、セグメント間取引消去8,177千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△182,420千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル・ レストラン 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	22,290,524	3,402,950	1,685,157	27,378,632	—	27,378,632
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	432,182	52,757	24,518	509,458	△509,458	—
計	22,722,706	3,455,707	1,709,675	27,888,090	△509,458	27,378,632
セグメント 利益又は損失 (△)	9,145,822	236,283	△33,349	9,348,755	△167,579	9,181,176

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△167,579千円には、セグメント間取引消去10,599千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△178,178千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。